

# 労働安全衛生 環境保全 活動報告 2008



**不二建設株式会社**

# はじめに

## 当社のシステム運用

当社は2000年より労働安全衛生、環境保全活動のシステム作りを進め、2001年にOHSAS 18001, ISO 14001を同時に認証取得しました。現在は、1998年に取得したISO9001と合わせた統合システムとして運用しています。

## 労働安全衛生活動

経験的な「安全活動」からリスクアセスメントによる危険減の特定、また遵守すべき「労働安全衛生法」等の法的要求事項やその他の要求事項を明確にして業務を行っています。

## 環境保全活動

日々の生活による環境(地球)への影響をより身近に感じ3Rをはじめとした限りある資源の有効活用も進めています。さらに、道路建設業の社会的使命を認識し、社会貢献活動へも積極的に参加しています。

## 安全衛生環境大会

毎年6月の環境月間に上記大会を開催しています。全社、協力会社が一同に集まり、新年度の目標に向い意思統一する場となっています。

2008年度は6月6日に開催しました。

## 施工検討会

工事着工前には工事担当者、各担当部門が集まり、担当者が現場の条件(制約、施工時期)を考慮して設定した労働安全衛生目標、環境目標や目標達成のための実施事項について集団で検討します。

安全衛生環境大会 2008.06.06



施工検討会



札幌本社 滝川本店  
ウェブ会議の様子

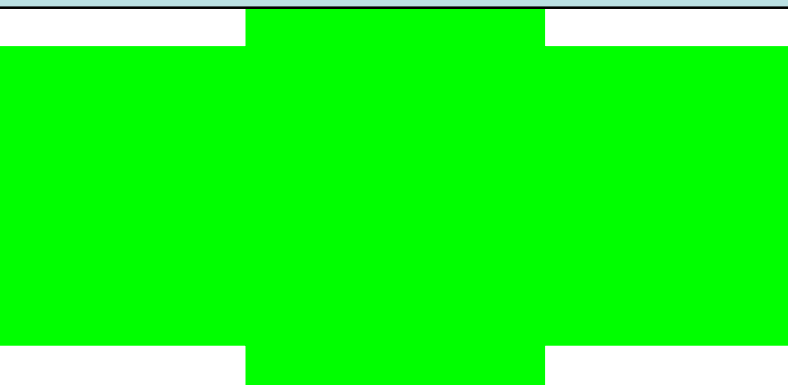


# 労働安全衛生活動

## 活動を進める背景

全産業における労働災害の現状は下表の通りです。建設業では全産業の約 1/3、毎年 4,500 人の方が亡くなっています。当社では 2004 年以降労災事故（休業 4 日以上）は発生していませんが、建設業の仕事が減っている中で全国的にはまだこれだけの方が亡くなる現状を直視し「事故を起こさない！」取組を不断なく行う必要性を痛感しています。

また、衛生面に関しても「労働を支える健康な体“作りのために“メタボリックシンドローム”等への対応が求められています。



## < 労働災害の現状(年間) >

死者 1,200人以上  
(建設業 400~500人)  
労災保険新規受給者  
約 50~60万人  
重大災害 200~300件

## 労働安全衛生目標

建設業の現状を受け、また前年度の活動状況を振り返り、2008年度の目標を下表のように設定しました。



1. 建設機械による無災害の連続記録の更新及びライフライン事故防止

2. 交通事故防止

セーフティラリーに全員参加  
完走率 70%

3. 健康増進

有所見者率

H19年の数値 69%以下

# 活動状況

## 1. 建設機械による無災害の連続記録の更新 及びライフライン事故防止

### < 建設機械による無災害 >

2008年度、災害は発生しませんでした。

この目標は、道路舗装工事を主体とする当社では切り離せない目標です。

施工検討会において、現場条件を考慮した目標が設定され、目標達成のために「作業計画書を活用したKY活動」、「視認性の良い安全施設の配置」、「除行を促す誘導員の配置」その他の対策が実施されました。

これらの対策がきちんと実施されていることを安全パトロールや日々の巡視により確認しました。



# 安全パトロール



全社安全パトロール  
(安全週間)



全社安全パトロール  
(年度末)



### < ライフライン事故防止 >

2008年度は、下請工事で1件発生しました。  
この目標も、ライフラインに囲まれた中で工事をする事の多い当社としては十分な対策で臨んでいただけに残念な結果です。  
この事故が起きたことで、当社のライフライン事故は2005年度から4年連続して6件発生した事になります。

## 2. 交通事故防止

セーフティラリーに全員参加 完走率 70%

2008年度は24チームが参加し完走チームが12、完走率50%で目標は達成出来ませんでした。  
また、新たに協力会社も15チーム参加しましたが、完走8チーム完走率53%とこちらも残念な結果となりました。  
完走出来なかった多くの原因は、スピードの出し過ぎです。  
2009年度はこの反省を踏まえ、環境保全活動と結びつけた活動にしていきます。





### 3.健康増進

有所見者率 (H19年の数値)69%以下

2008年の有所見者率は82%となり目標は達成できませんでした。

この目標設定に関しては、会社として個々人の健康状態を把握するのは当然としても、「個人情報」である「健康」に関してどこまで踏み込めるのかといった問題がありました。産業医の所見が一人一人に通知され、「健康管理に対する意識の向上を図る」ことが目標として相応しかったのでは。目標としては大き過ぎる内容だったと感じています。



# 環境保全活動

## 活動を進める背景

京都議定書の批准（2002年）から7年経ち、2008年からは90年比 - 6%の目標達成期間（～2012年）に入っています。が、減らすどころか逆に増えているのが現状です。

当社のCO2排出量は工事量の増減に連動しており、「どのようにCO2を減らすのか？」に腐心しています。そのような中、208年度は「前年比で減」という目標とともに間接的な削減も目標としました。

また、地域の理解と協力を得て行う公共事業では、地域社会に貢献することが当然であるとの認識に立って工事を遂行します。



< 日本のCO2排出量の現状 >  
2006年度で1990年比 + 6%  
(削減目標 - 6%)

## 環境目標

2008年度の目標は下記の通り設定しました。

### 1. CO2排出量の削減

オフィス活動 (一人当り)

2007年度比 5%削減

連絡車の燃費 前年度比 5%向上

合材生産の重油使用量 (1t当り)

前年度比 5%削減

ハイブリッドカーの導入

### 2. 主要資材ロスの削減

### 3. 環境保全製品の購入金額比率 90%

### 4. 社会貢献活動と環境保全活動を通じて、 地域社会との連携を深める

各サイトで1件以上の活動を行う

1年間でリングプルを10kg収集する

# 活動状況

## 1. CO2排出量の削減

### オフィス活動 (一人当たり)2007年度比 5%削減

2007年度と2008年度の比較です。

< 総排出量 (1000kg-co2 ) >

自動車除く 201 159 前年度比 - 20.9%

自動車含む 411 333 前年度比 - 19.0%

< 一人当たり (kg-co2 ) >

自動車除く 1,892 1,738 前年度比 - 8.1%

自動車含む 3,713 3,645 前年度比 - 1.8%

事業量 (金額億円)の比較では、

43.0 36.1 前年度比 - 16.0%

総排出量、一人当たり共に事業量の減少に伴い減っていますが、これが活動の成果と言えるかどうか。ともかく、5%の目標は達成です。



### 連絡車の燃費 前年度比 5%向上

全社での燃費の比較は、

2007年度 13.27km / L

2008年度 13.68km / L 対前年度比 + 3.1%

一台当りの月平均走行距離

2007年度 2,600km

2008年度 2,711km 対前年度比 + 4.3%

走行距離が伸びている分と ハイブリット車 2台導入の効果が出たものと思われます。

乗車距離が長くなりその点では燃費向上が考えられますが、反面通勤時間の短縮のためエコドライブの実践がまだ十分なものになっていない現状もうかがえます。セーフティラリーの完走率を上げるためにも、エコドライブを呼び掛けていきます。

### 合材生産の重油使用量 (1t当り)前年度比 5%削減

合材工場 3ヶ所の集計。

	2007年度	2008年度
合計出荷トン数	36,900t	22,700t
1 当り重油使用量	10.23L	10.32L
対前年比 出荷トン数		61.5%
1 当り重油使用量		+ 1.0%

出荷トン数の大幅な減少を考慮すると前年度比 + 1%は良い結果と考えられます。原因としては、骨材の乾燥状態が良い(天候に恵まれた)ことと、2007年度は小口出荷が多かったことです。

## 2. 主要資材ロスの削減

2008年度は各工事で厳しい資材の管理が行われ、主要資材であるアスファルト合材、路盤材、生コンでロスを減らすことが出来ました。この“ロスの減少”は、資源の有効活用という側面は当然ですが、製造、運搬、施工に伴うCO2の排出量を減らす側面も持っており、間接的なCO2の排出量の削減となります。さらに結果として“利益”の増加に結びついています。

## 3. 環境保全製品の購入金額比率 90%

2008年度は全社平均で91.6%と達成されました。2つのサイトで達成しませんでした。急な使用による地元業者での購入等によるものです。再生紙の古紙使用率でメーカーによる偽造が発覚し“グリーン購入”への不審も一時期ありましたが、活動としては定着した感があります。

## 4. 社会貢献活動と環境保全活動を通じて、地域社会との連携を深める

### < 社会貢献活動 >

年々定着してきています。2008年度はほぼすべての営業所、工事で実施されました。また、「地域の清掃」等が中心になっている箇所もありますが、年々活動内容も広がってきています。今後は協力会社も含め、さらに活動を広げていく考えです。

2008年度のセーフティラリーの「完走賞」を、ボランティア活動の一環として、「病気とたたかう子供たちに夢のキャンプをつくろう」と当社の地元滝川市の丸加高原で活動している「一般財団法人 そらぶちキッズキャンプ」に贈呈しました。贈呈式は2009年6月5日の安全衛生環境大会で行われ、中山社長より佐々木事務局長代理に完走賞の商品券が手渡されました。

2009年度も、難病とたたかう子どもたちに負けないように完走・目標達成を目指します



### <そらぶちキッズキャンプ> について

事業の趣旨 (ホームページより)

日本には小児がんなどの難病とたたかっている子どもたちが約20万人いると言われている。しかし、国内には難病児を受け入れることのできる医療施設の整った自然体験施設というものがなく、子どもたちは自然を体験する機会のないまま闘病生活を送っている。

そらぶちキッズキャンプは、難病などの病気とたたかう子どもたちが、自然の中で、安心して、安全に楽しく過ごせるように特別に配慮されたキャンプ施設を、そして自然体験プログラム、医師、看護師、ボランティアによる医療的バックアップを提供する。

そらぶちキッズキャンプは、病気の子どもやその家族が、病気のことを忘れ、笑顔で楽しいひとときを過ごし「楽しい思い出」「すばらしい仲間」「希望」を得ることを目指す。

創成川通りボランティアサポートプログラム (札幌市)



滝川クリーンデー (滝川市)



ヤマベが生息する  
モムチイ川の清掃  
(長万部町)



地元小学校の運動会に  
仮設トイレを提供  
(新十津川町)



公共工事をアピール  
舗装工事をパネルで紹介



### < リンゲブルの収集 >

全社で19.5kgと目標をはるかに上回りました。滝川本店では3年間で9kg収集しました。当社だけの収集量ではなかなか車椅子に換えることが出来ないため、当社も加盟している空知建設業協会に持っていきます。

2008年度で協会としては130kgになったそうです。



## 産業廃棄物の中間処理

当社では全道4カ所（滝川市、雄武町、浦河町、長万部町）でアスファルトコンクリート殻とコンクリート殻の中間処理を行い、産業廃棄物の再生利用を進めています。

2008年度は、19,700を受入れ、他社への販売も含め破碎処理した再生骨材を19,200利用しました。

ここ数年工事の減少で産業廃棄物の受入量と共に使用量も減り、再生骨材の活用が停滞気味になってきています。有効な活用が望まれます。

2008年度の活動をしっかり反省し、2009年度も頑張ります！

